

左は協会ロゴ兼エンブレム。2016年7月に制定。協会員・加藤隆久氏の作品。「ボール・ラケット・汗」がモチーフ。中央にボール、紡錘形はラケットと汗を表す。「ボール追って流そう爽やかな汗」を呼びかける。1973は協会創立年。



「顔」真央 引退
まいおどろ
銀盤の華
シューズ脱ぐ

男子初Vの「ai」のある場所(前)と準V「BRIO II」(後)



団体戦

クラブ・職場対抗団体戦は5月14日(日)市民公園で開催。男子(複2・単1)決勝は「ai」のある場所が「BRIO II」に競り勝って初優勝。女子(複2)は丸新が「BRIO」に快勝した。2011年以来6年ぶりに王座奪回。コンソレ男子は「テニス協会」、女子は「sexy cute」が優勝した。【2面(続く)】

a.iもある場所初V

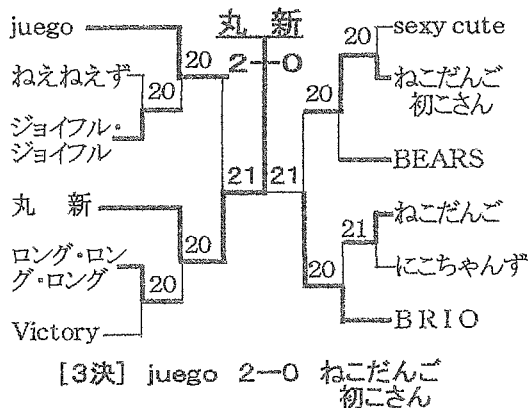
女子丸新が王座奪回

女王の座を奪還した「丸新」(前)と準Vの「BRIO」(後)

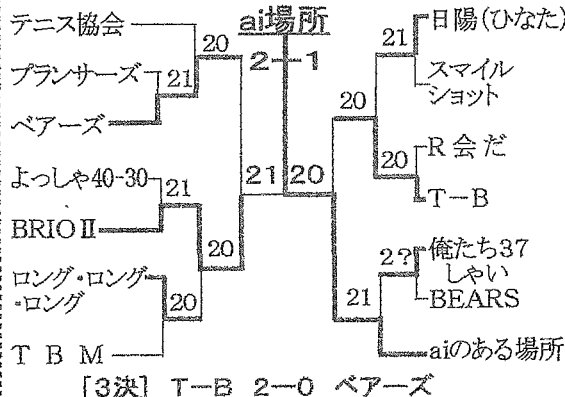


内実「愛牧」に競り勝つ
男子は前年準優勝で第2シードの「ai」のある場所が「俺たち37歳」・「T-B」を下して決勝進出。一方「40-30」・「ロング」・「ペアーズ」を退けた「BRIO II」は実質・強豪「愛牧」のメンバー。両者の決勝は「ai」のある場所が2-1で辛勝して初優勝を果たした。3決は「T-B」(テニス・バス)

<団体戦・女子戦績>



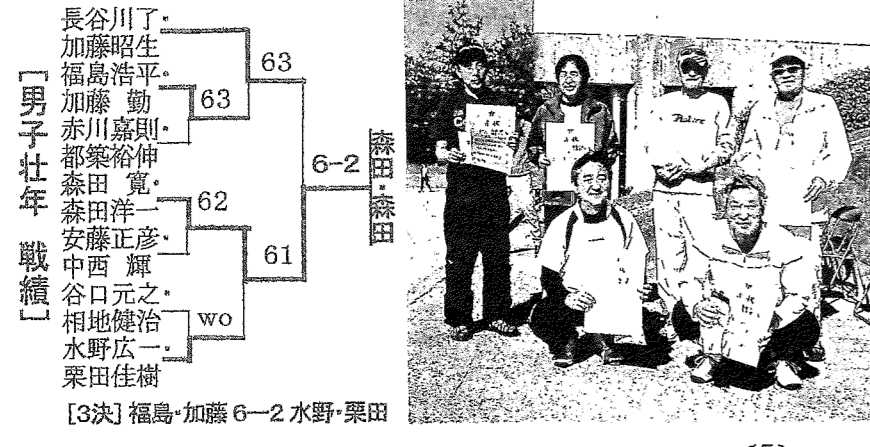
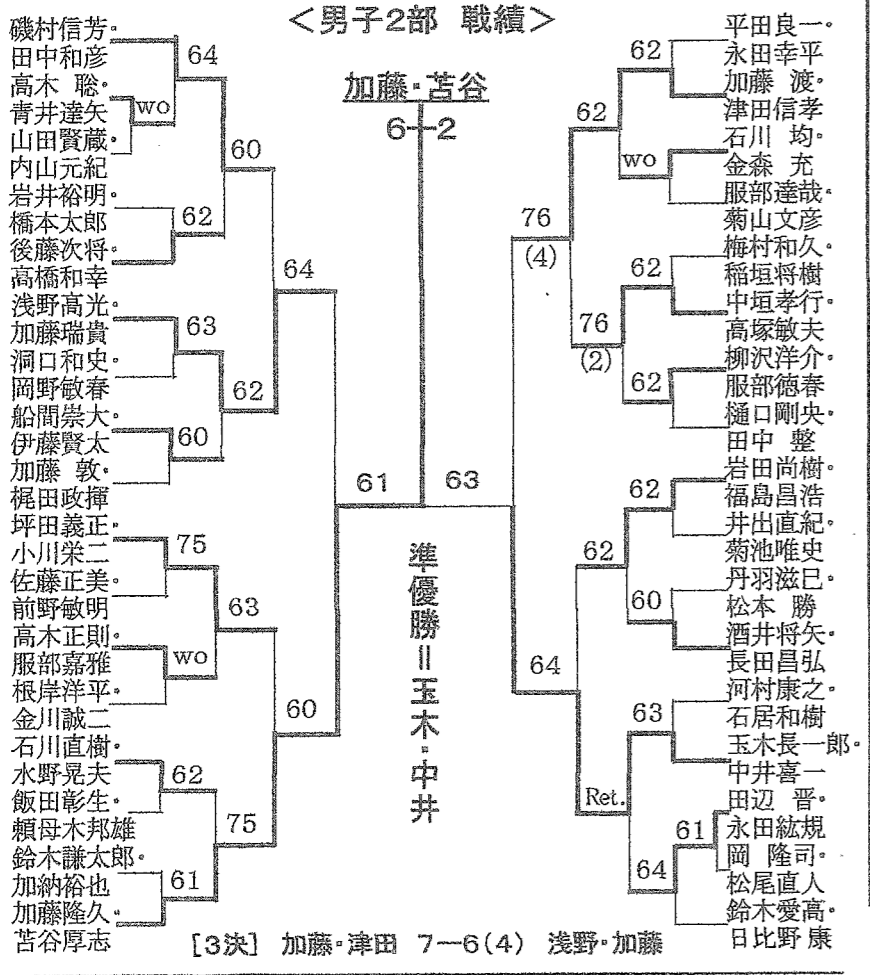
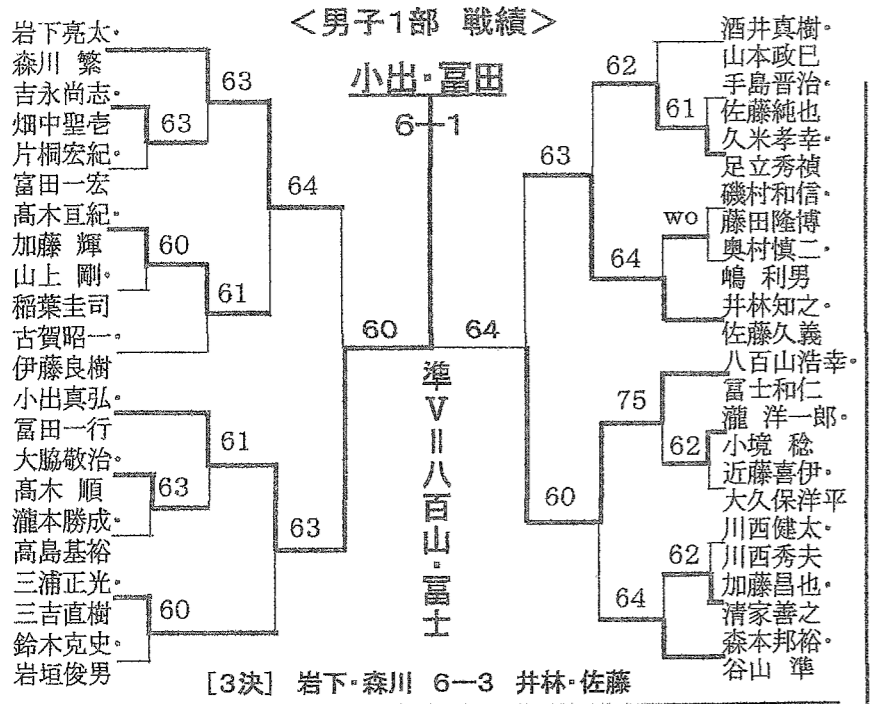
<団体戦・男子戦績>



ターズが「ペアーズ」に2-0で快勝。
BRIO 輝けず連続準V
女子準決勝、連覇を狙う第1シード「juego」(フェーゴスペイン語で「遊び・楽しい」)を丸新が2-1で倒した。昨年準優勝の「BRIO」は「ねこだんご」勢を連破して勝ち上がる。決勝は丸新が2-0で快勝。09年〜11年の3連覇に続く4度目のV。「BRIO」は惜しくも連続準優勝。
3決は「juego」が楽しく2-0。「ねこだんご」初こさんに「だんご」を母の日プレゼント?

小出・富田組 初優勝

春季大会
男子1部



男子1部初Vの小出・富田組(前左)、準Vの八百山・富士組(前右)、3位の岩下・森川組(後左)と井林・佐藤組(後右)



女子1部初Vの井戸田・池本組(前右)、準Vの寺田・河合組(前左)、3位の竹山・高組(後左)と森山・浦野組(後右)

女子は井戸田・池本組V

開幕戦、春季大会は4月23日(日)市民公園で開催。強豪激戦の男子1部は小出真弘・富田一行組が3度目Vを狙う。八百山浩幸・富士和仁組を下して初優勝。男子2部は加藤隆久・苦谷厚志組、壮年は森田寛・森田洋一組がV。女子1部は井戸田嘉奈子・池本麻里絵組が初制覇。2部は西田里奈・峰谷有加里組が優勝した。【5・6面へ続く】

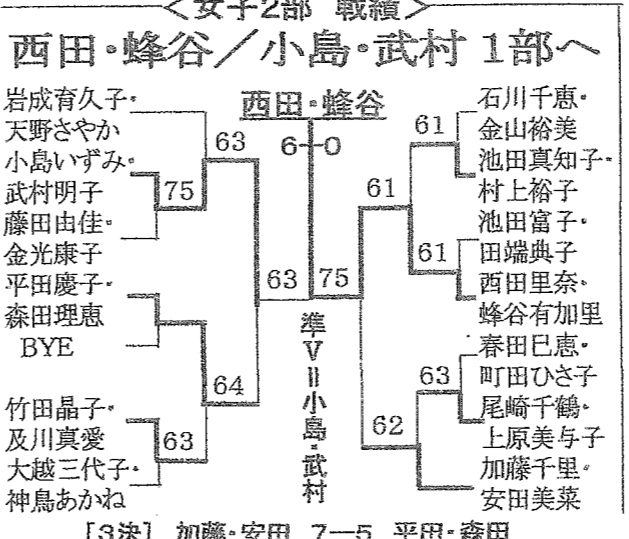
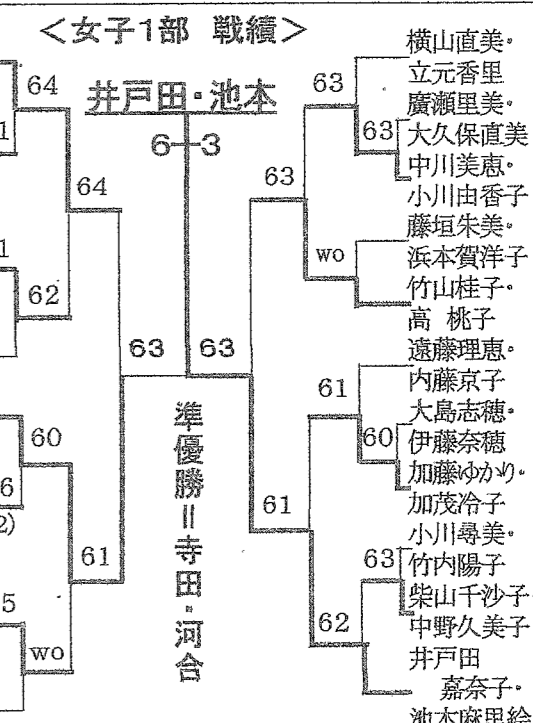
男子1部は強豪ひしめく23ヶの激戦。準決勝は岩下・森川組1・小出・富田組、井林・佐藤組1・八百山・富士組の対戦。小出・富田は完勝。八百山・富士はV候補一角、市選手権15年覇

は競り勝って頂上対決。決勝は小出・富田が手堅くリードを守り切り、61で快勝。八百山・富士の3度目のVを阻んで初優勝した。V候補一角、市選手権15年覇

者高木亘と16年覇者加藤輝の20代王者ペア(協会は8強入りしたが、前年優勝で第シードの岩下・森川組に4-6で屈した。1回戦屈指の好カード、手島佐藤(NAS)久米立足(愛牧)は、久米組が会心の勝利を挙げたが、4強入りはならず。3決は岩下・森川組が6-3で井林・佐藤組に快勝した。コンソレは

磯村・藤田組(T・B)が優勝。女子1部も23ヶが激戦。JUEGO3組はいずれもV候補。連覇

- <春季大会 成績>
- 男子1部(23組)
 - 優勝=小出真弘・富田一行(JUEGO)
 - 準優勝=八百山浩幸・富士和仁(チーム愛牧)
 - 第3位=岩下亮太・森川 繁(チーム愛牧)
 - 井林知之・佐藤久義(JUEGO)
 - 男子2部(35組)
 - 優勝=加藤隆久・苦谷厚志(市協会)
 - 準優勝=玉木長一郎・中井喜一(SLTC)
 - 第3位=加藤 渡・津田信孝(BEARS)
 - 浅野高貴・加藤瑞貴(SSG)
 - 男子壮年(6組)
 - 優勝=森田 寛・森田洋一(フリー)
 - 準優勝=長谷川了・加藤昭生(F22)
 - 第3位=福島浩平・加藤 勤(TBM)
 - 水野広一・栗田佳樹(F22)
 - 女子1部(23組)
 - 優勝=井戸田嘉奈子・池本麻里絵(JUEGO)
 - 準優勝=寺田ひとみ・河合利江(丸新)
 - 第3位=竹山桂子・高 桃子(BRIO)
 - 森山由香・浦野優子(JUEGO)
 - 女子2部(13組)
 - 優勝=西田里奈・峰谷有加里(SLTC)
 - 準優勝=小島いずみ・武村明子(フリー)
 - 第3位=加藤千里・安田美菜(BEARS)
 - 平田慶子・森田理恵(フリー)



◆沖胡 オキコ?いいえ「おきえびす」。トップスピナー。「つらや・おきこ組」のアナウンスに「ややこい名前で、すみませんね」と苦笑い。今回JUEGO1女子は名前に泣いた。申し込みを依頼、届けられたら所属は「フェーゴ」。ために早くも2回戦で潰し合い。それでも強豪らしく1位と3位を占めた。

50歳以上の男子壮年は出場7組で久々成立。「F22」が4組。前年2部準Vの森田・森田組(フリー)は1部を敬遠して、壮年に初登場。難敵の福島・加藤組を下したシード形の長谷川・加藤組との決勝。互いに年齢を感じさせない気力あふれるプレーの応酬。森田・森田組が6-2で押し切って狙い通りの優勝。

写真は、初優勝した森田・森田組(前)、準優勝の長谷川・加藤組(後右)、勝者3位の福島・加藤組(後左)

元氣モリモリ
男子壮年は森田・森田





男子2部優勝の加藤・苦谷組(前左)、準優勝の玉木・中井組(前右・玉木)、3位の加藤・津田組(後右)と浅野・加藤組(後左)

加藤・苦谷組 2部卒業

35組出場、男子2部決勝は、初コソト士の加藤・苦谷組と、テラノ玉木・中井組の老若対決。ともに2部卒業。若し加藤・苦谷組が6-1で快勝。準V・玉木・中井組と組んだ中井は元インフル選手とか。3決は加藤・津田組がタイプで浅野・加藤組に辛勝。



女子2部優勝の西田・峰谷組(前)、準優勝の小島・武村組(後左)、3位の加藤・安田組(後右)

1部挑戦よ

女子2部は13組。ともに1部昇格を決めた西田・峰谷組・小島・武村組の決勝。動きの鋭い西田・峰谷組が圧勝した。2部の1部の果敢な挑戦と活躍を期待したい。3決は加藤・安田組が平田・森田組に7-5で競り勝ち、銅メダルと賞品をカシリ確保。

処分明け復帰戦 ポルシェGP シアラポワ4強



薬物違反で昨全豪以降15か月の資格停止を受けた30歳シアラポワ(ロシア)が処分明けの4月26日、ポルシェグランプリ(独・4月24日)に出場。復帰大会は4強で終わった。シアラポワは前52週のポイントが消失ランキング外。処分明け日に合わせた特別の主権者推薦出場には批判多く、ベテランの酷評も。逆に平日も満員の会場は歓迎ムード。シアラポワは1回戦、36位・ピンチ(伊)に7-5、6-3で復帰初戦を飾り、2回戦も43位・マクロワ(シ)を7-1、6-1。準々決勝は7-3位・ニタバイト(エストニア)に

棄物違反で昨全豪以降15か月の資格停止を受けた30歳シアラポワ(ロシア)が処分明けの4月26日、ポルシェグランプリ(独・4月24日)に出場。復帰大会は4強で終わった。シアラポワは前52週のポイントが消失ランキング外。処分明け日に合わせた特別の主権者推薦出場には批判多く、ベテランの酷評も。逆に平日も満員の会場は歓迎ムード。シアラポワは1回戦、36位・ピンチ(伊)に7-5、6-3で復帰初戦を飾り、2回戦も43位・マクロワ(シ)を7-1、6-1。準々決勝は7-3位・ニタバイト(エストニア)に

わせた特別の主権者推薦出場には批判多く、ベテランの酷評も。逆に平日も満員の会場は歓迎ムード。シアラポワは1回戦、36位・ピンチ(伊)に7-5、6-3で復帰初戦を飾り、2回戦も43位・マクロワ(シ)を7-1、6-1。準々決勝は7-3位・ニタバイト(エストニア)に

◆シアラポワの話＝「復帰はとても幸せ。試合に出て勝つのが私の仕事。準決勝は第2セットで多くのミスをして、相手に自信を与えてしまった」

◆伊達の話＝「膝は痛くなかった。やっとな復帰のスタートが切れた。やっといけるメドが立ったのは大きな一歩」

46歳・伊達再起 長良川



復帰戦を飾れなかった伊達。黒髪にも表情は明るかった

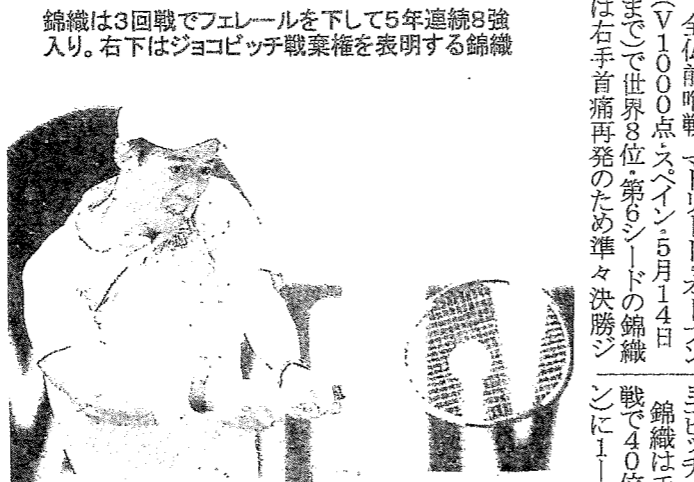
左膝を手術した伊達公子(46歳)が1年4か月ぶりに復帰した。昨年の1-3、6-4で快勝したが、準決勝で19位のムラフレンツ(仏)に6-3、5-7、4-6で逆転負けした。3戦をストレート勝ちしたが、準決勝は第1セットを圧倒したものの、第2セット以降はサーブの安定感を失い、揺さぶられてシートの精度が落ちた。2時間38分の接戦に敗れ、決勝進出ならず。この4強により、ランキング262位がついたが、全仏予選資格の200位内に届かず。主権者推薦の8枠に入る可能性は残した。

大坂 腹筋痛、初戦で惜敗 大坂なおみ(46位)は予選を突破したが、1回戦で7位・コスタ(英)に6-7、6-3、1-6で敗れた。予選での腹筋痛が悪化し、最終セットは失った。大坂はこのケガのため、プラトリードの2大会を欠場。

全豪予選で悪化、帰国して2月、4月と2度手術。リハビリを経て岐阜・長良川プラザでのカンガルーカップ(5月7日まで)に主権者推薦で出場。136位に2-1、2-1 単1回戦で136位・朱琳(23歳・中国)に6-7、2-1、2-1の完敗。ラリーで押され、技を見た場面もあったが、決めミスが目立った。伊達は韓国(転戦)。下部大会の予選1回戦で完勝し、復帰後初白星。予選を3連勝して本戦入りしたが、1回戦で右肩を痛めて棄権した。

3月末のマイアミ大会で左膝を痛めた西岡良仁(27)は、帰国後の検査で前十字靭帯断裂と診断され、4月4日に手術。今季は全豪で初白星。ランクも一時58位にまで上がった矢先の痛いつら。復帰いつる。全仏は無理？

錦織4決め棄権 マドリッド ヨコ戦回避



全仏前哨戦、マドリッドオープン・ヨコベッチ(セルビア)戦を棄権した。V1000点入。5月14日(木)で世界8位・第6シードの錦織は40位のシオトツマン(アルゼンチン)に1-6、6-1、0-6、6-4の逆転勝利。錦織は3回戦でフェールを下して5年連続8強入り。右下はジョコビッチ戦棄権を表明する錦織

◆錦織の話＝「3回戦を終えて右手首が悪くなってきている。100%でプレーできない。治りかけなので悪化は避けたい。(全仏を控えて)大事を取った」

◆フエテラー・ナダル組 夢のゴールデンペアが実現しそう。今秋に新設される「バー杯」は世界入り。準々決勝、テイエムには、1セットで敗退。第1セット、いきなりブレークし、第2セットも2-0と先行したが、ともにその後6ゲーム連取された。自己初のツアード4強はならなかった。錦織は予選で敗退したが、錦織欠場のため、ラッキョーラー・ガスケは片手バック得意の強豪。錦織過去2勝7敗。6連敗中の苦手の1人。テイエムは世界9位の伸び盛りの若手。14位・ダニエル・メドベドベフは予選突破したが初戦でバシラヒリシヨージに3-6、1-6で敗れた。

◆フエテラー・ナダル組 黄金ペアが「バー杯」で実現？ 選抜対欧州選抜の団体戦。これにF.Nがダブルスを組むという。フエテラーのプレーが大好き。一度でいいから組んでみたい。ナダルがこれまで何度も誘いの声を掛けてきた。フエテラーが色よい返事をしなかったが、ナダルは「彼がイラスと言ってくれたら、諦めないよ」と、プレー同様、持ち前の粘りを見せるか、興味深い。

◆大坂3回戦負け＝女子のボルボカー・OP(4月・米チャールストン)単で大坂なおみは2回戦を逆転勝ちしたが、3回戦でロジャース(米)に4-6、2-6で敗れた。

バルセロナ 杉田が健闘8強



男子のバルセロナオープン(4月24-30日・スペイン)、91位の杉田祐一(28歳・三菱電機)が8強入り。準々決勝で第4シード・テイエム(オーストリア)に1-6、2-1、6で屈した。1回戦で元5位のロブレド(現28歳・ペイン)に6-3、6-3で完勝し8強入り。準々決勝、テイエムには、1セットで敗退。第1セット、いきなりブレークし、第2セットも2-0と先行したが、ともにその後6ゲーム連取された。自己初のツアード4強はならなかった。錦織は予選で敗退したが、錦織欠場のため、ラッキョーラー・ガスケは片手バック得意の強豪。錦織過去2勝7敗。6連敗中の苦手の1人。テイエムは世界9位の伸び盛りの若手。14位・ダニエル・メドベドベフは予選突破したが初戦でバシラヒリシヨージに3-6、1-6で敗れた。

◆自己タイの8強！喜ぶ杉田 ◆杉田の話＝「ガスケ破り」最後まで思い切りくしかかないと思った。ボールを散らしていったら相手はフィットしていきなかつた。勝った瞬間はうれしいうらやま、ほっとした。[4強ならず]完敗です。落ちて打たせてもらえなかつたし、なかなか切り替えができませんでした。相手・テイエムのボールの回転がすごくて、本来のタイミングでとらえられなかつた。自信を得た大会になった。年齢的にも今年しかないとの覚悟でやっています」

◆テイエム下しナダルが連覇 決勝は第1シード・ナダルがテイエムに6-4、6-1で快勝し2連覇。ツ

◆ナダルモンテカルロ制す マスターズモンテカルロ4月23日(木)決勝はナダル(スペイン)が同僚

◆日比野組が優勝 女子のモンテレイ・OP(4月・メキシコ)で日比野菜緒は、単は1回戦で敗れたが、ロソルスカ(ポーランド)と組んだ複で準決勝快勝。決勝も6-2、7-6で制して優勝した。単はパブリュチェンコワ(ロシア)がケルパー(独)を6-4、2-6、6-1で倒して優勝。



17連勝 更新中

「すごい人が現れた」と羽生三冠も驚く。瀬戸市川北町の最年少プロ棋士・藤井聡太四段が無傷の17連勝を更新中。非公式戦では4月末に羽生三冠を破り、5月7日、豊島八段には5月14日にNHK放映。戦は5月14日にNHK放映。02年生まれ。両親は将棋無縁。祖母が指南。負けず嫌いな大付属中3年。市内孫田町「みもと」将棋教室へ出。小4、名直。本昌隆七段門下生に。入門当日、師匠を下した。

新記録 14歳・最年少プロ棋士

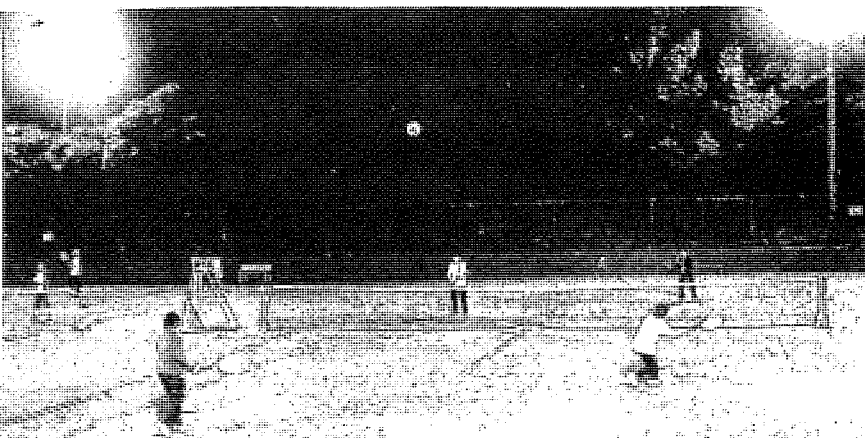
昨年9月、最年少14歳2か月で四段。史上5人目の中学生プロに。12月のデビュー戦でそれまでの最年少者で現役最年長。7歳の加藤一二三九段に快勝。3月、タイ記録の10連勝。4月に小林七段を倒し新記録11連勝。羽生三冠、渡辺竜王・棋王も6止まり。21年ぶりの快挙。「新人王」間近。当人は勝ち負けより内容。連勝は幸運。いつも自然体で。

初タイトルめぐまざる驚異の詰め将棋王者

目標はタイトルですが、まず一歩ずつ力をつけることと謙虚。得意は数学。美術が苦手。趣味はランニングの詰め将棋作り。「詰め将棋王者大会」初の小学生王者。今年3度目のV達成。

照明の下、快い汗

練習会 始まる



協会練習会が4月5日(水)スタート。市民公園で水曜(19時~21時)、土曜(17時~21時)のナイター。10月まで毎月4回・計28回を計画している。初日の5日は肌寒く、桜はまだ「つぼみ」。参加12人。今季は土曜2回「外部コーチレッスン」の

新企画。4月8日が初回予定だったがが雨。それでも集まった5人は状態のよい5番コートで自主練習を強行。が、間もなく再び雨に見舞われて散会。5月6日の「コーチ特訓日」は13人が参加した=写真=。全28回、「最多賞争い」今年も激しい。



MUFGジュニア 誉高の池田優勝

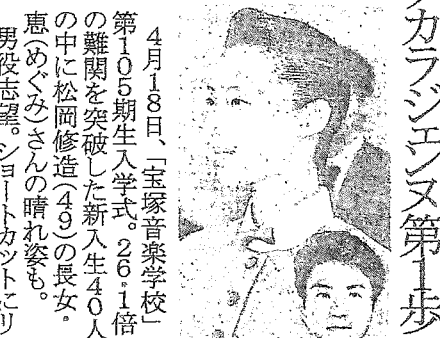
MUFGジュニア決勝トーナメント(東山・4月4~8日)で男子は第2シードで誉高1年の池田朋弥(15歳・愛知)、女子は第1シード・坂詰姫野(新橋)が優勝した。各地の予選を勝ち抜いた16歳以下の男女各64人が熱戦を展開。男女ベスト4は日本テニス協会から海外の大会に派遣される。

男子優勝の誉高校・池田朋弥(15歳)。干頭昇平(早大)の後輩になる。女子で瀬戸のホープ・青木乙葉も誉高だ。



ホープ 南山高の永田杏里(あんり)写真真IIは昨年のMUFGジュニア女子の覇者。4大会ジュニア出場への愛知の逸材。

松岡修造の長女・恵さん



4月18日、宝塚音楽学校・第105期生入学式。26.1倍の難関を突破した新入生40人の中に松岡修造(49)の長女・恵(めぐみ)さんの晴れ姿も。男役志望。シヨートカットにリゼント。凛々しく真新しいグレ

テ杯後任 岩淵監督

テ杯・植田実監督の後任に岩淵聡(41)。現役時代はテ杯・複などで活躍。引退後の2010~15年は代表チームのコーチ。4月25日の就任会見で新監督は「WG初の4強をめざす」と目標を掲げた。

50代横綱 佐田の山79歳

本名市川晋松(しんまつ)。第50代横綱。出羽海親方(のち境川)。4月27日、肺炎のため死去。79歳。長崎県五島出身。1961年初優勝。65年横綱に。相鷹時代に優勝6回。68年引退。「若貴時代」の理事長。

STKニュース

協会業務部発行の会報。原則隔月。1975年(昭和50年)創刊。98年から定期刊行。第10号まで梶田俊幸・元理事、11号から理事・近藤峰夫が制作を担当。約250部。会員に郵送。

次号6月末・混複大会後

〇時流れる——銀座・真央、「箱根」山の神、柏原引退。痛む錦織。西岡。片や復活フエテラー、ナダル。再起のシヤラポワ、伊達。若い力の南山高・永田。藤井四段、一気に29連勝してしまえ!

〇団体戦「R会」だ、今年も裏の雄の本領「37歳」と「ai」場所の本戦はハイレベル。春季大会は男女ともJUEGO優勝。2部卒業4ベアの活躍を期待。

〇狂暴な「共謀罪」に加え、「2020年に新憲法」(安倍)——五輪悪用。時期先決の狡猾さ。公明配慮の「自衛隊」加憲に維新抱き込み用の「教育無償化」をセッテ。「北」の脅威に悪乗り。武力示威の米・トランプに追従の安倍。益々キナ臭いぞ! (会報係・近藤)

本名森シゲ子。歌手。4月12日、肺炎のため死去。83歳。東京都出身。青山学院高等部卒。「南国士佐」を後にして「トドレ」の歌「学生時代」など二千曲以上を残す。根上淳(故人)との「おしどり夫婦」ぶりも評判だった。